

(参考様式4)

事業活用活性化計画目標評価報告書

| | | | | |
|----------------------|---------|------|---------|---------|
| 計画主体名 | 計画主体コード | 計画番号 | 計画期間 | 実施期間 |
| 雲南市 | 322091 | 1 | H24~H27 | H24~H25 |
| 活性化計画の区域 | | | | |
| 雲南市中心間地区（別紙計画区域図の通り） | | | | |

1. 事業活用活性化計画目標の達成状況

| 事業活用活性化計画目標 | 目標値A | 実績値B | 達成率(%) B/A | 備考 |
|--------------------|-----------|-----------|---------------|----|
| 定住人口の確保 | 5.96 ポイント | 6.71 ポイント | 112.58% | |
| 定住等の促進に資する基盤整備の円滑化 | 3年 | 3年 | 100% | |

(コメント)

高齢者・女性等地域住民の活動・生活支援促進施設を整備して、地域住民活動や生活支援等が活発化したことにより、地区内の定住や都市との交流促進が図られ、「定住人口の確保」は目標値を上回り達成できた。

また地形図を作成することで、地域の活性化に不可欠な地域農業の発展に向けた農業生産基盤整備事業が円滑に実施できることにより、「定住等の促進に資する基盤整備の円滑化」は目標値どおり達成できた。

2. 目標の達成のために実施した各事業の内容と効果

| 事業メニュー名 | 事業内容及び事業量 | | 事業実施主体 |
|--|--------------------------------------|--------|------------|
| ① 高齢者・女性等地域住民活動・生活支援促進機械施設 | 多根交流促進施設 1棟 448.00 m ² | | 雲南市 |
| 管理主体 | 事業着工年度 | 事業竣工年度 | 供用開始日 |
| 雲南市 | 平成24年度 | 平成24年度 | 平成25年3月21日 |
| 事業の効果 | | | |
| 多根交流促進施設は、地域の交流活動拠点、福祉・防災拠点として、高齢者や女性グループの地域福祉・地域文化活動が行われるほか、防災活動や伝統芸能を継承するための子ども神楽教室の開催など、住民が地域の課題を自ら解決していく「地域自主組織」等の活動拠点として、また地域の魅力を発信する拠点として定住人口の確保に寄与している。 | | | |

| 事業メニュー名 | 事業内容及び事業量 | | 事業実施主体 |
|---|--------------------------------------|----------|------------------|
| ② 高齢者・女性等地域住民活動・生活支援促進機械施設 | 松笠交流促進施設 1棟 505.25 m ² | | 雲南市 |
| 管理主体 | 事業着工年度 | 事業竣工年度 | 供用開始日 |
| 雲南市 | 平成 24 年度 | 平成 25 年度 | 平成 26 年 2 月 27 日 |
| 事業の効果 | | | |
| <p>松笠交流促進施設は、地域の交流活動拠点、福祉・防災拠点として、高齢者や女性グループの地域福祉・地域文化活動が行われるほか、世代間交流として子どもと大人の料理教室の開催や健康ウォークが行われるなど、住民が地域の課題を自ら解決していく「地域自主組織」等の活動拠点として、また滝などの地域資源を活かした地域の魅力を発信する拠点として定住人口の確保に寄与している。</p> | | | |

| 事業メニュー名 | 事業内容及び事業量 | | 事業実施主体 |
|---|-------------------|----------|------------------|
| ③ 地形図作成 | 地形図作成 A=30 h a | | 雲南市 |
| 管理主体 | 事業着工年度 | 事業竣工年度 | 供与開始日 |
| 平成 24 年度 | 平成 24 年度 | 平成 24 年度 | 平成 25 年 3 月 22 日 |
| 事業の効果 | | | |
| <p>地形図作成を行うことで、地域の活性化に不可欠な地域農業の発展に向けた農業生産基盤整備事業の円滑な実施に寄与した。</p> | | | |

3. 総合評価

| |
|---|
| <p>(コメント)</p> <p>①高齢者・女性グループ活動や地域福祉・地域文化・防災活動など、住民が地域の課題を自ら解決していく「地域自主組織」等の活動拠点として、地区内の定住及び都市との交流促進が期待できる。</p> <p>②高齢者・女性グループ活動や地域福祉・地域文化活動など、住民が地域の課題を自ら解決していく「地域自主組織」等の活動拠点として、また地区内にある「日本の滝100選」に選ばれた「龍頭ヶ滝」等の豊富な観光資源を活かした、地域の魅力発信の拠点施設として地域の活性化及び定住人口の確保が期待できる。</p> <p>③平成 27 年度に区画整理事業（農地整備事業（経営育成型））に着手し、平成 32 年度に完了する予定である。農業生産基盤整備事業を円滑に実施することにより集落営農に取り組み、生産意欲を喚起して営農が継続されることで、農業の担い手確保や地区内の定住促進、農業の維持・発展や地区の活性化が期待できる。</p> |
|---|

4. 第三者の意見

(コメント)

本事業による施設改良・整備は全体として、当該地域の人口動態にかんがみて、成果が上がっていると評価できる。

とくに、

- 1) 既存施設の改良・活用による事業で費用対効果が高いこと
- 2) 福祉や地域住民の交流だけではなく文化活動拠点としても位置づけられ、農村文化の継承と発展が期待できること
- 3) 地形図作成が集落営農を展望した的確な地域で実施されていること

が高く評価できる。

全体として、地域自主組織の活動拠点として明確な位置づけを持って整備されたことなど地域の実情にそった的確な事業が実施され、地域の持続性を展望しうる明確な効果を持ったといえる。

(関 耕平 島根大学 法文学部法経学科准教授[財政学・地方財政論担当])